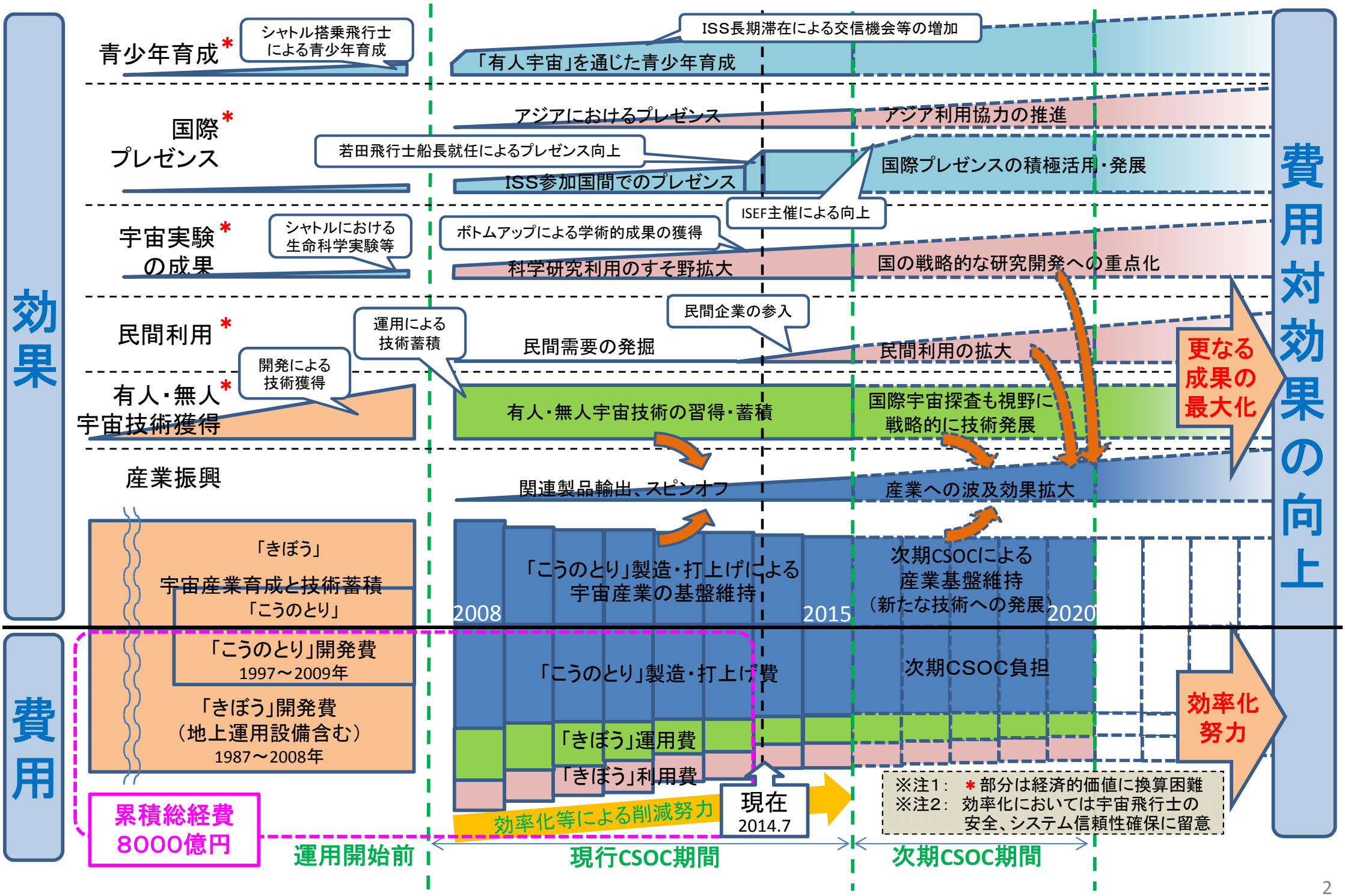
付録５
ISS計画への参加に関する費用対効果


効果
費用対効果の向上
青少年育成*
シャトル搭乗飛行士による青少年育成
ISS長期滞在による交信機会等の増加
「有人宇宙」を通じた青少年育成
国際プレゼンス*
アジアにおけるプレゼンス
アジア利用協力の推進
若田飛行士船長就任によるプレゼンス向上
ISS参加国間でのプレゼンス
国際プレゼンスの積極活用・発展
ISEF主催による向上
宇宙実験の成果*
シャトルにおける生命科学実験等
ボトムアップによる学術的成果の獲得
科学研究利用のすそ野拡大
国の戦略的な研究開発への重点化
民間利用*
運用による技術蓄積
民間企業の参入
民間需要の発掘
民間利用の拡大
開発による技術獲得
有人・無人宇宙技術獲得*
有人・無人宇宙技術の習得・蓄積
国際宇宙探査も視野に戦略的に技術発展
更なる成果の最大化
産業振興
関連製品輸出、スピンオフ
産業への波及効果拡大
「きぼう」
宇宙産業育成と技術蓄積
「こうのとり」
「こうのとり」製造・打上げによる宇宙産業の基盤維持
次期CSOCによる産業基盤維持（新たな技術への発展）
2008
2015
2020
費用
「こうのとり」開発費
1997～2009年
「こうのとり」製造・打上げ費
次期CSOC負担
「きぼう」開発費（地上運用設備含む）
1987～2008年
「きぼう」運用費
「きぼう」利用費
効率化努力
効率化等による削減努力
現在
2014.7
※注1： * 部分は経済的価値に換算困難
※注2： 効率化においては宇宙飛行士の安全、システム信頼性確保に留意
累積総経費
8000億円
運用開始前
現行CSOC期間
次期CSOC期間